

グループホーム

# 転倒時の衝撃吸収マットを活用

## 安心して自立生活できる環境整備



管理者の伊藤和紘さん

ガを予防する環境を整える。設置場所の両立が欠かせない」と強調する。

そこで、今年8月にイノアックリビング(名古屋)市、井上聡一代表(取締役)の床に敷

置ける。設置場所の両立が欠かせない」と強調する。

同施設では、利用者Aさん(91歳・女性)のベッド前にスラージュを敷

たところ、靴のかかとを踏んでバランスがとりにくい状態だったことから、前方に転倒してしま

「設置したスラージュの上で転倒したため、幸いケガはなかった。万が一転倒しても、ケガのリスクを最小限にする取組

みの重要性を実感した」と伊藤さんは振り返る。

このほか同施設では、転倒リスクが高い利用者

のベッドや、靴の上に着用した職員お手製の鈴が入った箱(写真2)を置いて

動き出しを把握し早期にサポートに入る工夫を行っている。

### 「コロナ禍での活動を促す工夫」

同施設ではコロナ禍以前は、地域の農家と入居者が共同して農園運営を行ったり、清掃活動に参加するなど入居者の社会交流も積極的に取り組んできた。しかし、新型コロナ感染拡大で外出機会が減少。施設内でレクリエーションを多数行うなど、生活を豊かにする工夫に取り組んでいる。

伊藤さんは「外出機会が減っていてもADLを維持するために、生活リハビリとして自主的な活動を促すことがより重要となっている。安心して活動できる環境を今後も提供していきたい」と語った。



(写真2) 職員お手製の鈴が入った箱で、利用者の動き出しを自然に把握する

伊藤さんは「今後はスラージュをトイレや浴室など転倒が発生しやすい場所や、廊下など施設全体でも活用したい」と話

藤さん。日常のレクリエーションでも、交流を意識したイベントを開催。「喫茶もみじ」では、入居者が店員となって別の入居者や職員を接待するなど、自身の役割を感じてもらおうと、生活の意欲向上にも繋がっている。

医療法人常念会(権田隆実理事長)が運営するグループホームもみじ(愛知県豊橋市)は、「住み慣れた地域の家庭的な温もりのなかで、いつまでも自然な笑顔で過ごせる暮らしを実現」を理念に利用者が安心して自立生活できる環境を整えている。

管理者の伊藤和紘さんは「自立を促すということは転倒リスクにも繋がる。特に、認知症の人が転倒骨折すると、転倒したことを忘れてリハビリに専念できないなど、普通の人と比べて回復度が異なる。長く健康状態を保つためにも、自立とケ

同商品は介護帽にも使用される、衝撃吸収の特性がある高機能ウレタン素材「PORON」(ポロロン)を採用。厚さは3mmと一般的な衝撃吸収マットよりも薄く、車いすはもちろん、スリッパやすり足、杖を使用した場合でも容易に歩くことができる。つまずきにくい。

両面防水加工でアルコール消毒や清拭が可能。裏面はすれにくい素材で、硬い床やフロアリングにも接着剤無しで設



(写真1) ベッド前にスラージュを敷いている

把握し早期にサポートに入る工夫を行っている。さらに、希望する利用者には転倒時の衝撃を吸収するクッションが入ったパ

ナ感染拡大で外出機会が減少。施設内でレクリエーションを多数行うなど、生活を豊かにする工夫に取り組んでいる。

伊藤さんは「外出機会が減っていてもADLを維持するために、生活リハビリとして自主的な活動を促すことがより重要となっている。安心して活動できる環境を今後も提供していきたい」と語った。

て、好みの便器が異なる。5万8000円)は、同一生産でも対応している。